

基礎薬理学

科目到達目標:薬の生体に対する作用を理解し薬について正しい知識を得る。

科目責任者(所属):松永 慎司(分子薬理学)、海藤 俊行(解剖学)

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
1	4/5(火)	3	111	薬理学概論	松永 慎司	分子薬理学	薬とは何かを理解、薬の種類、薬の歴史、薬の作用部位、その作用様態の理解	薬物、薬物受容体、薬力学、薬物動態学、輸送体、分布相、除去相
2	4/12(火)	3	111	Pharmacodynamics(1)用量反応関係	松永 慎司	分子薬理学	用量反応曲線の理解	ED50、Potency、Efficacy、LD50、TD50、治療係数、リガンド、アゴニスト、アンタゴニスト
3	4/12(火)	4	111	Pharmacodynamics(2)薬物受容体	松永 慎司	分子薬理学	受容体の構造・特性を理解、それを基にして受容体作動薬、受容体拮抗薬の理解	質量作用の法則、構造活性相関、余剰受容体、完全活性薬、部分活性薬受容体結合実験、競合拮抗薬、解離定数(KD)、pA2値
4	4/19(火)	3	111	Pharmacokinetics ADME(1)	島田 美樹	薬剤部	薬物の吸収・分布・代謝・排泄の機序の理解	クリアランス、半減期、AUC、初回通過効果、分布容積、生体利用率
5	4/19(火)	4	111	Pharmacokinetics ADME(2)	島田 美樹	薬剤部	薬物の吸収・分布・代謝・排泄の機序の理解	受容体結合実験、競合拮抗薬、解離定数(KD)、pA2値
6	4/26(火)	3	111	薬物代謝とCYP、薬害・副作用 薬物代謝に関する相互作用	島田 美樹	薬剤部	薬物代謝を規定する因子、薬物相互作用の理解	CYP、酵素誘導、酵素阻害、薬物相互作用全般
7	4/26(火)	4	111	自律神経薬理学序論	富田 修平	分子薬理学	自律神経系による体の調節機構の理解	神経伝達物質、ACh、NA、DA、再取り込み、代謝、受容体
8	5/10(火)	3	111	自律神経作用薬(1)	岩尾 洋	分子薬理学 非常勤講師	副交感神経系作用薬の作用の理解	コリン作用薬、抗コリン作用薬、ムスカリン受容体、ニコチン受容体、ムスカリン受容体拮抗薬
9	5/10(火)	4	111	自律神経作用薬(2)	岩尾 洋	分子薬理学 非常勤講師	副交感神経系作用薬の作用の理解	コリン作用薬、抗コリン作用薬、ムスカリン受容体、ニコチン受容体、ムスカリン受容体拮抗薬
10	5/17(火)	3	111	自律神経作用薬(3)	玉置 俊晃	分子薬理学 非常勤講師	交感神経系作用薬の作用の理解	アドレナリン作用薬、抗アドレナリン作用薬、 α 受容体作動薬、 β 受容体作動薬、 α 受容体拮抗薬、 β 受容体拮抗薬
11	5/17(火)	4	111	自律神経作用薬(4)	玉置 俊晃	分子薬理学 非常勤講師	交感神経系作用薬の作用の理解	アドレナリン作用薬、抗アドレナリン作用薬、 α 受容体作動薬、 β 受容体作動薬、 α 受容体拮抗薬、 β 受容体拮抗薬
12	5/19(木)	1	111	平滑筋作用薬(1)	松永 慎司	分子薬理学	オータコイドの定義と理解	ヒスタミン、セロトニン、麦角アルカロイド、H1,2遮断薬、5-HTアゴニスト、5-HTアンタゴニスト
13	5/19(木)	2	111	平滑筋作用薬(2)	松永 慎司	分子薬理学	血管作動性ペプチドの理解	アンジオテンシンII、ブラジキニン、エンドセリン、ナトリウム利尿ペプチド、サブスタンスP
14	5/26(木)	1	111	平滑筋作用薬(3)	松永 慎司	分子薬理学	プロスタグランジン、エイコサノイドの理解	エイコサノイドアゴニスト、エイコサノイドアンタゴニスト、リポキシゲナーゼ、シクロオキシゲナーゼ、ホスホリバーゼII、プロスタサイクリン
15	5/26(木)	2	111	平滑筋作用薬(4)	松永 慎司	分子薬理学	一酸化窒素、その供与体、その阻害薬の理解	EDRF、一酸化窒素供与体、NOS、NOS活性化薬、NO供与体

教育グランドデザインとの関連:2, 3, 4, 5

学位授与の方針との関連:1, 2, 3

評価:定期試験100%

定期試験:6月6日(月)8:40-10:10